

清泉女子大学キリスト教文化研究所年報 第26巻 平成30年
Journal of the Research Institute for Christian Culture, Seisen University, Vol. 26, 2018

『日葡辞書』の日本語教育的価値 —複合動詞をめぐって

鯉澤千鶴

Values of Nippoisho (Vocabulario da Lingua do Japam 1603) in Japanese Language Education - from the viewpoint of Japanese compound verbs

Chizuru KAJIKAZAWA

This paper aims at reviewing the values of Nippoisho (Vocabulario da Lingua do Japam 1603) in Japanese Language Education. From the viewpoint of Japanese compound verbs, the editors did big effort, 1. entries as much as possible, 2. helpful grammatical explanations, and 3. practical translations. Nippoisho plays significant role in Japanese Language Education.

要 旨

『日葡辞書』は1603年イエズス会の宣教師によって作られた日本語とポルトガル語の対訳辞書である。その日本語学的価値はつとに知られているが¹、本稿では、日本語教育の立場から、複合動詞をもとに考察する。その結果、『日葡辞書』は、外国人の苦手とする複合動詞をできるだけ見出し語に立て、文法説明を施し、さらに語釈や用例にも工夫をこらしていることがわかった。『日葡辞書』は日本語教育的にも大きな価値をもつのである。

1. はじめに

『日葡辞書』¹は1603年日本イエズス会によって刊行された、ポルトガル語と日本語の対訳辞書である。1980年に土井忠生ほかによる邦訳²が

出版されてからは、日本語学や日本語史のみならず当時の実社会を知る資料として大きな影響を与えてきた。しかしながら、日本語教育からの考察はほとんどされてこなかったといってよい。松岡洸司はつぎのように指摘する。「日葡辞書は外国人のために作製されたものであるだけに、(中略)日本語教育の視点からも、日葡辞書の真価はさらに問われることはまちがいないのである。」³

本稿では、『日葡辞書』の日本語教育的価値を複合動詞から考察する。複合動詞をとりあげたのは次の二つの理由による。第一は、複合動詞の多様性が日本語の特質のひとつであること⁴だ。世界の諸言語のなかでも複合動詞、特に動詞＋動詞型の複合動詞を持つのは、南アジアの諸言語(日本語・韓国語・チュルク諸語・中国語等)に共通するが、インド・ヨーロッパ諸言語にはほとんど観察されない。たとえば、日本語の「歩き回る」は英語では「walk around」, 「立ち上がる」は「stand up」などとなり、「動詞＋動詞」の構造はとらない。さらに、南アジアの諸言語と比較しても日本語の複合動詞は圧倒的な量と種類をもつのである。筆者は留学生の日本語教育を10年以上経験したが、中・上級の学習者からの質問には複合動詞に関するものが必ず含まれていた。第二は、日本語の複合動詞についての研究が深まったことである。2013年に影山太郎により基本的な理論が確立した⁵うえに、同年、野田時寛により、日本語教育の観点から約2400語の「複合動詞一覧の試み」⁶がまとめられた。さらに、国立国語研究所は、2013年から2700語超の「複合動詞レキシコン」⁷をホームページで公開している。

2. 複合動詞の分類

2.1 現代語の場合

日本語の複合動詞にはいろいろな分類方法があるが、国立国語研究所の「語彙の研究と教育(上)」⁸によれば、次のようである。

- | | |
|--------------------|----------------|
| ・ 動詞＋動詞 | 呼び寄せる 聞きとがめる |
| ・ 形容詞または形容動詞の語幹＋動詞 | 近寄る, 元気づく |
| ・ 名詞＋動詞 | 名指す 泡立つ |
| ・ 副詞＋動詞 | ピカピカする, ほんやりする |

- ・音象徴語 + 接尾辞（派生語） ざわめく， びくつく
- ・名詞 + 接尾辞（派生語） 色めく， 汗ばむ

このうち、最も多い「動詞 + 動詞」型複合動詞を国立国語研究所の複合動詞レキシコンでは、次のように分類している。

- ・動詞 + 動詞（二つの動詞がそれぞれ本来の意味と格関係を持ち、前項動詞が後項動詞を修飾するもの。例：押し開ける，流れ着く）
- ・動詞 + 補助的な動詞（後項動詞が補助的な動詞になっているもの。例：晴れ渡る，咲き競う）
- ・接辞語化した動詞 + 動詞（前項動詞が接辞的になっているもの。例：差し迫る，ぶっ飛ばす）
- ・一語化（一語として固定化していると認識されるもの。例：落ち着く，思い出す）

2.2 17世紀日本イエズス会の分類

日本語の歴史を見るとき、上代では複合動詞はなかったとする見方もあるが⁹、古代語にもその存在が認められているという立場をとる見方¹⁰もある。日葡辞書を編纂した当時のイエズス会の日本語研究では複合動詞はどのようにとらえられていたのだろうか。

『日本大文典』¹¹はイエズス会士ジョアン・ロドリゲスによって1608年に編纂された480ページを超える日本語の文法書である。複合動詞については、「動詞の種類と階級とに就いて」（70丁表）に次のようにある。

- 動詞は単純動詞か複合動詞かである。（中略）
- 複合動詞は、Quiritoru（切取る），torimauasu（取り廻はす）のやうに他の動詞と複合して動作の状態を示すものか、助辞と複合したものかである。助辞の複合は尊敬又は軽蔑する為か、謙遜する為か、更に意味を添へる為か、これら三通りの目的による。

続けて、敬意を示す助辞は、Von（おん）、又は、Vo（お）を伴った Ariaru（あり、ある）。Rare（られ）、Re（れ）、Saxerare（させられ）、Xerare（せられ）、Nasare（なされ）、Tamai（給ひ）、を挙げる。謙譲を示す助辞は、Mairaxi（参らし）、Mōxi（申し）、Tatematçuri（奉り）、

Xexime (せしめ), Soro (そろ), Nari (なり), Famberi (侍り), Samburai (さぶらひ), を挙げる。さらに、次のように続ける。

○更に意味を添へる為の助辞を伴った複合動詞は二通りある。一は Saxe (させ), 及び Xe (せ) との複合であって, 動作をさせる意を示す。他は動詞にただ力を添へるだけの助辞, たとえば, Vchi (打), voi (追), voxi (押), faxe (馳), ai (相), tori (取) 等と複合するものである。例へば, Vchifatasu (打果す), voicaquru (追懸くる), voxicomu (押込む), faxenoboru (馳上る), aicauaru (相変る), torifiroguru (取広ぐる), toriauau (取合はぬ)。

つまり, 日本語の動詞には, 単純動詞と複合動詞があり, 複合動詞には動詞が連なるものと, 動詞と助辞(助詞・助動詞)が連なるものがある。動詞+動詞型は切取る, 取り廻すなどの動作を表し, 動詞+助辞型は, 待遇表現を表す尊敬か軽蔑, そして謙讓, さらに意味を添えるという三種類があるという。意味を添えるというものの一つが, 使役動詞をつくる「させ, せ」であり, もう一つが, 「打, 追, 押・」などの強調を示すものであるというのである。日本語の複合動詞を, 動詞+動詞の形のみならず, 待遇表現をからめて, また, 接辞として使われる動詞をも含めて理解していた。このように, 『日葡辞書』を編纂した当時の日本語研究は精度の高いものであった。

3. 日本語教育の視点からの複合動詞

では, 日本語教育の現場で, 複合動詞はどのような問題をもっているのだろうか。松田文子によれば, 複合動詞のうち最も割合の高い¹²「動詞+動詞」の型を持つものは, 「日本語学習者にとって上級者になっても習得の難しい項目の一つである」¹³という。さらに森田(1978)¹⁴を引用して「学習者が日本語を学ぶ場合, 教科書によって与えられる動詞のほとんどは単純動詞であり, それらの動詞を組み合わせた複合動詞については, 学習の機会があまりない。したがって複合動詞に関する知識が不十分なまま上級段階に進んでしまい, 夥しい複合動詞の波にぶつかって困惑することになる」といっている。そうして, 実際に学習者が難しいと感じる具体的な箇

所については、留学生へのアンケートから、つぎのような三点を挙げている。

1. 「結合条件」に関するもの
2. 「単純動詞」と「複合動詞」の意味的差異に関するもの
3. 「習得の方法」に関するもの

1の「結合条件」とは、どんな動詞と結びつくのか分からないというもので、勝手に単語を作り出す危険性を指す。動詞の組み合わせについては、影山(1997)¹⁵や松本(1998)の研究があるが、「他動詞性の調和の原則」¹⁶や「主語一致の原則」¹⁷などは、日本語学習者にとっては、ハードルの高いもので、辞書記述内での説明は不可能であろう。

2の「意味的差異に関するもの」とは、単純動詞の「書く」と複合動詞の「書き込む」の違いを説明できず、どんな時に使うかがわからないというものである。これは、まさに辞書の出番で、的確な解説と用例文によって解決できよう。

3の「習得の方法」とは、複合動詞の多くに見られる「-込む」「-きる」などの語を分けて覚えようとしたが効果がなく、辞書に出ていない語や、説明の足りない語が多いというものである。動詞の一方が接辞になる場合が多いので、辞書中でそれを採りあげ、その説明がなされると理解がすすむ。また、できるだけたくさんの複合動詞が辞書の見出し語にたてられればよいということになる。

つまり、見出し語数が多く、接辞の文法説明を持ち、さらに意味記述や用例文に十分な配慮のなされた日本語辞典があれば、複合動詞の問題には解決の兆しが見えてくるといえよう。

4. 『日葡辞書』にみられる工夫

4.1 見出し語の豊富さ

『日葡辞書』は見出し語総数を32,798語¹⁸とするが、そのうち見出し語にたてられた動詞の内訳は次のようである。

動詞の種類	語数	全動詞中の割合	全見出し語中の割合
単純動詞	1793語	32.4%	5.5%
複合動詞	3738語	67.6%	11.4%
動詞 + 動詞型	3192語	57.7%	9.7%
そのほか	546語	9.9%	1.7%

なお、動詞 + 動詞型の複合動詞を採録する場合、つぎのような基準を設けた。

- 1 基本的には動詞の連用形 + 動詞の連用形をとるものに限る。
- 2 ただし、前項動詞が接辞となったものも採録する。日本語学習者に区別は不可能に近いためである。(例：打ち・追い・押し等¹⁹)
- 3 連用形 + 「て」形等となり成句あるいは成句に近くなったものも採録する。日本語学習者にとっての実用的な配慮のためと考えられるからである。(例：「相構へて」・「搔き紛れて」等²⁰)
- 4 漢字表記は『邦訳日葡辞書』に従ったが「擲ち」⇒「投げ打ち」, 「魔き」⇒「指し招き」など²¹ 例外もある

このように、『日葡辞書』では総動詞数の三分の二、さらに総見出し語数の一割近い数を複合動詞の動詞 + 動詞型が担っている。たとえば、前項動詞のうち最も多い「引き」を見てみると次のように112語を数える。

引き上がり, 引き上げ, 引き開け, 引き集め, 引き当て, 引き合はせ, 引き仰げ, 引き被り, 引き掛かり, 引き隠し, 引き屈め, 引き掛け, 引き傾げ, 引き語らひ, 引き替へ, 引き返し, 引き被き, 引き違へ, 引き違へ²², 引きちぎり, 引き散らし, 引き試み, 引き籠め, 引き籠り, 引き越し, 引き下し, 引き組み, 引き崩し, 引き出し, 引き剥ぎ, 引き放ち, 引き離れ, 引き離し, 引き張り, 引き扨け, 引き外し, 引き開き, 引き広げ, 引き綻ばかし, 引き伏せ, 引き具し, 引き出だし, 引き入れ, 引き惑はし, 引き巻き, 引き廻り, 引き廻し, 引き見, 引き戻し, 引き挽ぎ, 引き挽ぎ²³, 引き催し, 引き対へ, 引き向け, 引き結び, 引き靡け, 引き直し, 引きなし, 引き伸べ, 引き上せ, 引き残り, 引き退け, 引き退け, 引き乗せ, 引き抜き, 引(挽)き切り, 引き切り, 引き下がり, 引き裂け, 引き裂き, 引き曝し, 引きさし, 引き側め, 引き側め²⁴, 引きそびき, 弾・引き損なひ, 引きすぐり, 引き捨て, 引き据ゑ, 引き立ち, 引きたくり, 引き立て, 引き撓め, 引き倒し, 引き繕ひ, 引き詰め, 引き付け, 引き連れ, 引きつり, 引き包み, 引き留まり, 引き留め, 引き留め, 引き取り, 引き通し, 引き別れ, 引き分り, 引き分け, 引き渡り, 引き渡し, 引き起し, 引き折り, 引き下ろし, 引き落し, 引き受け, 引き受け²⁵, 引き退き, 引きしをり, 引き破り, 引き寄り, 引

き寄せ、引き摺り

この他にも、「引っ」を前項動詞にもつものが、「引っかなぐり、引っ込み、引っ立て」など28語²⁶、口語の「ひん」を前項動詞にもつ「ひん廻し、ひん抜き」など6語²⁷が見出し語に挙がっている。『日葡辞書』編纂者の、網羅的に複合動詞を拾いあげようという意欲が感じられる。

ここで、いくつかの日本語辞典の見出し語にみられる複合動詞（動詞＋動詞型）と総見出し語数を比較に挙げてみる。

辞典名	動詞＋動詞型複合動詞数	総見出し語数	割合
振り仮名和英辞典	152語	17,000語	0.89%
例解小学国語辞典	1101語	34,000語	3.24%
新明解国語辞典	1976語	7,3000語	2.71%
和英語林集成第3版	1737語	35,618語	4.88%
日葡辞書	3192語	32,798語	9.73%

『振り仮名和英辞典』²⁸は講談社から1992年に出版された外国人のための日本語辞書である。漢字にはルビが施され、英語の対訳・説明のついた辞書で、日本語初学者に定評がある。ただし、収録語数が17,000語なので、『日葡辞書』と比較すると総見出し語数は約二分の一、複合動詞（動詞＋動詞）の数も極めて少ない。

『例解小学国語辞典』²⁹は、日本人小学生向けの国語辞典である。見出し語の取り上げ方が親切で、接辞なども見出し語にたてられている。それぞれの見出し語につけた意味区分ごとに、例文が挙げられているのは、外国人学習者にとっても参考になるものだろう。総見出し語数は『日葡辞書』と変わらないが、見出し語に立てられた複合動詞（動詞＋動詞）は三分の一に留まる。

『新明解国語辞典』³⁰は1971年に三省堂から出版された、『小辞林』の一般向け小型現代語辞典である。この辞書にはいわゆる子見出し³¹がつく。親見出しのみの総数は63,000語、複合動詞は1,732語となり、割合は2.73%となる。総見出し語数が『日葡辞書』の二倍以上になっているが、複合動詞（動詞＋動詞型）は三分の二に納まる。³²

一方、『和英語林集成第3版』³³は、宣教医として来日したJ.C.ヘボンに

よって1886年に出版された和英・英和辞書の第3版である。日本人の生きた言葉を集めた辞書として、国語辞典としても評価されるものである。また、この第三版の見出し語総数は、初版・再版を大きく上回って、35,000語を超える。外国人の製作した日本語学習者のための辞書で、最も『日葡辞書』と近いものであるが、複合動詞の見出し語は約二分の一である。

このように見てくると、できる限りの複合動詞を見出し語に載せるという『日葡辞書』の特殊性がうかがわれよう。

4.2 文法的説明

『日葡辞書』の複合動詞の表記には、分かち書きが使われていない。前項動詞も後項動詞もハイフンやスペースで区切られていないので、動詞の区切り目がわからない。たとえば、「読み合はせる」は「Yomiauaxe, suru, eta」(読み合はせ, する, えた)³⁴となるが、これが『和英語林集成第三版』では、「Yomi-awase-ru」となり、「読み」と「合わせ」が合成しているのが見て取れる。しかし、『日葡辞書』でも、同じ読みの動詞に多く接すれば、その動詞の連用形に関心が高まり、その動詞が動詞としての意味だけでなく、どのような意味を持つか気にかかるだろう。動詞の接辞としての説明は、学習者の文法理解に役立つに違いない。前項動詞を頻出順に並べると次のようになる。

1・引き 112	2・取り 110	2・相・合 110
4・打ち 102	5・見 81	5・思ひ 81
7・申し 78	8・押し 66	9・言ひ 62
10・差し 62	11・吹き 60	12・踏み 50
13・聞き 46	14・為 41	15・立ち 39
16・追ひ 35	17・書き 34	18・駆け 33
19・掻き 32	20・乗り 31	21・馳せ 30

このうち「2・相・合、4・打ち、5・思ひ、8・押し、21・馳せ」の5語は接辞としてつぎのような説明がされている。

相・合「この語は、また、一種の助辞でもあって、時にそれ自身は何の

意味をも示さないで、動詞と合して、それに一種の力を添え、あるいは、優雅さを加える場合がある。たとえば、Ai camayete (相構えて)、Ai cocoroete (相心得て)、など。ある場合には語句の頭にあつて、…とともに、…と一緒に、の意味をもつこともある。Ai tomoni (相共に) ほかの人と一緒に、Ai atçumaru (相集まる) ほかのの人々と一緒に集合する」

打ち「この動詞はほかの多くの動詞と接続して、複合語をつくる。そして、ある場合には、趣を添えるだけである。それは、以下の諸条に見られるとおりである。」(この後に、打ち赤め、打ち上げ、打ち合ひ、打ち開け、など「打ち」のつく複合動詞が102語、挙げられる。)

思ひ「そしてこのように、この語が接続する種々の形容詞や副詞³⁵の意味に応じて、さまざまな意味を持つのである。」(この後に、思ひ明かし、思ひ合ひ、思ひ余り、思ひ侮り、など「思ひ」のつく複合動詞が続く。)

押し「また、主として他の動詞と連なって、力をこめるとか手で押しつけるとかの意を示す」

馳せ「以下の諸条に見られるように、この語の語根(連用形)は、多くの動詞に接続し、敏速さの意味を示してその動詞に或る力を添える。」(この後に、馳せ上げ、馳せ合ひ、馳せ歩き、など「馳せ」のつく複合動詞が続く。)

同様に後項動詞を頻出順に並べると次のようになる。

1・合ひ	76	2・立て	64	3・合はせ	52
4・上げ	51	5・付け	46	6・取り	40
6・掛け	40	6・出だし	40	9・出し	38
9・返し	38	11・置き	36	12・入れ	35
13・入り	34	14・渡り	33	15・上がり	30
16・掛かり	28	17・落し	27	17・捨て	27
17・廻し	27	20・行き	26	21・殺し	24

このうち、「1・合ひ、3・合はせ、5・付け、6・掛け、21・殺し」には、つぎのような説明がなされている。

合ひ「また、特に、この語が他の語の末尾に複合した場合には、上述³⁶のような意味をもつ。例, Noriai (乗合ひ) 一緒に船の旅をすること、または、一緒に船に乗り込むこと。」

合はせ「また、この語が他の語と複合すると、物が一緒に合わさる意味を示す。例, Nimai auaxeni camiuo coxirayuru. (二枚合はせに紙を拵ゆる) 紙を二枚貼り合わせて厚紙を作る。」

付け「この動詞は、他の動詞の語根(連用形)について、ある物事をし慣れている、あるいは、ある物事をするのに慣れて習熟している、という意を示す。例, Vazato xitçuquru. (業と為付くる) 労働をし慣れている。または、手細工をするのに慣れている。Funeni noritçuqeta fito. (船に乗り付けた人) 船に乗って航海するのに慣れている人。」

掛け「また、多くの動詞の語根(連用形)に接続して、物事をし始めることを意味し、次のように言う。Xicaqete (しかけて) し始めていて。」

殺し「この動詞は、他の多くの語根(連用形)に添ってその語根の意味する動詞によって殺すことを示す。例: Saxicorosu (刺し殺す) 突き刺して殺す。」Fumi corosu (踏み殺す) 踵, 足で蹴とばして殺す。」Icorosi, su (射殺し, す) 矢, または、鉄砲で射て殺す。」

4.3 言葉を照らす意味記述

最後に付け加えたいのは、辞書を単なる意味の分析ではなく、会話や文章に使えるための意味記述に、『日葡辞書』が意を凝らしていることである。見出し語の意味を微に入り細を穿つように記すというよりも、具体的に例を挙げて、学習者がその語をできるようにする細かい工夫がみられる。例えば、実際に目に浮かぶような状況を描写する、日本に独特のもの(衣服・刀剣・将棋・鷹匠)などは単純な言いかえに終わらせない、そして、主語や目的語が、人から物などへ、変わった場合の言い回しは比喩として新たに付け加える、というものである。次に、a 状況を表す叙述、b 日本文化を解説する叙述、さらに c 比喩を加えたものに分けて、若干の例を挙げる。

・ a 状況をあらわしたもの

跳ね掛け 自分が責任を負っている事、または、自分が引き受けている事について、他人にその責任を負わせる、あるいは、咎を他人にかぶせる。」
例：Are coso Sono jucuxiuoba tabetareto fanecaqêôzure. (あれこそその熟柿をば食べたれと跳ねかけうずれ) 寓話集. あの男がその熟柿を食ったのだと私があの男に罪をかぶせよう.

掻き寄せ 地面に散らばっている物を手の指とか道具とかで掻き集める。例：Matçubauo caqiyosuru. (松葉を掻き寄する) 松葉を両手、又は道具で寄せて集める。

噛み爛らかし ^{ただ}固くて粘りのある物を噛み砕いたり、噛み切ったりするのに、たとえば、飴などのように、うまく噛み切れないで、口の中で長く伸びるようになるまで噛む。

見限り 愛想をつかす、すなわち、そんな人ではないと思っていたのに、その人が或る物事を下手にやりそこなったのに驚く、あるいは変に思う。

取り認め 寝床をしつらえ整えたり、荷物をきちんとくくり縛ったり、その他のもののあるべき場所にきちんと片付けたりするなど、何か物を整える。」 Fumiuo torixitatameru (文を取り認める) 書状を折り畳み、封をする、すなわち、きちんと整える。

思ひ慣れ 誰かある人がすぐに来るだろうか、来ないだろうか、または、その人はどうするだろうか、または、どんな具合になるだろうかなどというように、何か物事を思いわずらったり、考え続けたりすることが習慣になっている。」また、ある愛情や友情になれきっている。あるいは、いつごろからか、愛情か友情を抱いている。

遣りかけ 良いことか悪いことかに注意を払わないで、あるいはまた、受け取る相手がその物で喜ぶかどうかもわからないままで、或る物を或る所へ送ってやる。」また、funeuo xeni yaricaquru (船を瀬に遣りかくる) 船を暗礁にぶつける。

揺り立て 地面に立ててある物、たとえば、木とか槍とかを地面にしつかりと差し込む。すなわち、その物自体の重みで中へ入りこんで行くように、それをゆさぶり動かして立てる。」また、水の底によどんでいる泥を上へ上がって来させるように、水をゆり動かす、その他これと同様。

・b 日本文化を解説する叙述

引き違へ 日本人の習わしとは反対に着物の前面（右おくみ）をもう一方の左側（左おくみ）の上に重ねる。」例：Qirumonouo fiqi chigayuru.（着る物を引き違ゆる）

蹴廻し 座敷（Zaxiqi）を歩く際に引きずって歩く袴（Facama）を足で器用に蹴ってうまくさばき扱う。」また、鞆などのような物を足を蹴ってぐるっと回らせる。

受け流し 〔相手が〕打ち込んで来るのを自分が傷つけられないように脇へそらす、または、敵の刀などをそらして滑らせるような具合に自分の刀の上に受けとめる。」例：Catanauo vqenagasu（刀を受け流す）刀（Catana）で打ち込んでくるのに対して身をかかわす、あるいは、よける。」（後略）

追ひ越し ある人が追跡している獣なり狩りの獲物なりが先の方へ進んで、中間にある山とか丘とかのために姿が見えなくなる。ただし鳥類については Fiqicosu（引き越す）というから、上述のようには言わない。しかし、鷹がある鳥を追いかける場合は別でその時は Tacaga voicoxita（鷹が追ひ越した）という。

指し詰め また、日本のチェス（将棋）で勝つ。」また、ある役目や仕事その他これに類することにある人を全員で指名する。

・c 比喩

あへ揉み 群衆が込み入っている時などに、人を押したり、倒したりする。また比喩：人を軽蔑したりひどく冷遇したりして嘲弄する。

這ひ廻り ぐるぐると円く這って歩く、または、木蔭が木にぐるぐると絡みついて上る。時には、比喩の言い方として、何かを得ようとして、ある人にへつらい、その人の後について歩き回る意。

引き起し 眠っている人を目ざめさせ、起き上がらせる。」比喩：忘れていたこととか、過ぎ去った事、たとえば訴訟などとかを、再び持ち出す、あるいは、むし返す。」後略

取り飼ひ 鷹に獲物を取らせるために、餌を少しずつ何度も与えていった後、最後になって鷹の欲しがるだけ食物を与える。（中略）」比喩：Fitou toricö（人を取り飼ふ）人を自分の味方につけるために、その人に物を与えたり、かわいがったりして、利をもって誘い込む。

押し懸かり 敵勢や城などに攻めかかる、あるいは、打ってかかる。」
 比喩：Voxi cacatte mösu (押し懸かって申す) 人から言われる事とか、
 相手が希望する事とか、不可能な事であるとかなどにはお構いなしに、
 相手を攻めたてて自分勝手に物を言う。

立ち入り はいる、または、あるひとの家に自由に出入りすることを許
 され足しげく行く。」比喩：Döxinni tachiiru (道心に立ち入る) 現世を捨て
 てて信仰に入る。

飛(跳)び歩き 鳥などが飛び回る、または、跳びはねながら回る。」
 また(跳び歩く) 比喩：いたずらな子供などが跳びはねながら歩き回る、
 あるいは、やかましくちょこちょこ動き回る。

為巻かれ 蛇などに巻きつかれ締めつけられる、または、その状態にな
 る。」比喩：Ano fitoua cano vonnani ximacarete iru (あの人のはかの女に
 為巻かれてゐる) あの人のはあの女のとりこになってからみつかれている。

5. まとめ

フランシスコ・ザビエルは日本からローマに宛てた書簡に次のように書
 いている。

日本は、聖なる信仰を大きく広めるためにきわめてよく整えられた国
 です。そしてもしわたしたちが日本語を話すことができれば、多くの人
 びとが信者になることは疑いありません。主なる神は私たちが短い期間
 に〔日本語を〕覚えるならば、きっとお喜びくださるでしょう。³⁷

今、私たちは言葉を習うため(中略)あらゆる手段を選び心構えをし
 なければなりません。³⁸

満足な筆記用具さえなかった400年前に『日葡辞書』は32,000語を超
 える見出し語をもって完成した。本稿では、現代の日本語学習者にとつ
 ても難解な複合動詞をとりあげ、『日葡辞書』の日本語教育的価値を検証し
 た。編集者は、見出し語をできる限り多く立て、頻出する接辞的な動詞の
 説明も欠かさず、さらに言葉を実際に使えるような語彙説明をこころがけ
 ている。『日葡辞書』は宣教師たちの日本語教育に限りなく大きな力を与
 え、ザビエルの期待にこたえたのである。『日葡辞書』の日本語教育的価

値は揺るぎのないものであるといえよう。

注

- 1 VOCABULARIO DA LINGUA DE IAPAM com adequação em Portugues, feito por ALGVNS PADRES E IRMÃOS DA COMPANHIA DE IESV.
- 2 土井忠生ほか編訳 (1980)『邦訳日葡辞書』岩波書店.
- 3 松岡洸司 (2004)「日葡辞書の再考と新しい方向性」『日本語学』23 (12).
- 4 影山太郎編 (2013)『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて』ひつじ書房.
- 5 同上
- 6 野田時寛 (2013)「日本語動詞用法辞典について (4)—複合動詞一覧の試み—」『人文研究』75.
- 7 公開サイト <http://vlexicon.ninjal.ac.jp>
- 8 国立国語研究所編 (1984)『日本語教育指導参考書：語彙の研究と教育 (上)』.
- 9 金田一春彦 (1953)「国語アクセント史の研究が何に役立つか」『金田一博士古稀記念言語民族論叢』三省堂.
- 10 林翠芳 (1996)「古典語複合動詞から現代複合動詞へ」『同志社国文学』44.
小島聡子 (2001)「日本語の複合動詞」『日本語学』20 - 9.
- 11 ジョアン・ロドリゲス原著 (1955)『日本大文典』(土井忠生訳注) 三省堂.
- 12 『日葡辞書』においては複合動詞の 85%以上を占める.
- 13 松田文子 (2002)「複合動詞研究の概観とその展望—日本語教育の視点からの考察—」『言語文化と日本語教育』日本言語文化学研究所.
- 14 森田良行 (1978)「日本語の複合動詞について」『講座日本語教育』14 早稲田大学語学教育研究所.
- 15 影山太郎・由本陽子 (1997)『語形成と概念構造』日英比較選書 8 研究者出版.
- 16 複合動詞は外項を取る動詞 (他動詞と非能格動詞) 同士か, 外項をとらない動詞 (非能格動詞) 同士によってつくられる.
- 17 二つの動詞すなわち前項動詞と後項動詞の主語が同じでなければならない.
- 18 本篇 25,967 語, 補遺 6,831 語で重複をそのままにした総数である. 重複を避けると総数 32,293 語となるが, 筆者の主観的判断が加わるためあえてそのままとした.
- 19 ほかに「馳せ」「相」「取り」
- 20 ほかに「燻ほりかへって」「こひ願はくは」「こきませで」「取って返し」「取って退き」「割って入り」

- 21 「擱き」⇒「差し置き」, 「陥れ」⇒「落とし入れ」, 「翫び」⇒「持て遊び」, 「希」⇒「乞ひ願ひ」
- 22 補遺の項 こっそりと物を盗むという比喩が加わる.
- 23 補遺の項 果実を引きちぎる, 特に十分に熟していない時にそうすることを言う, が加わる.
- 24 補遺の項 刀を引き側むる(刀を鞘から少し抜き, 脇へそらして, 敵に斬りかかる構えをする)が加わる.
- 25 補遺の項 あることを自分の任務とする, あるいは, 受けもつ. また, どのような事にせよ, 自分自身にあてはめてよく考えてみる, が加わる.
- 26 ほかに, 引っ掛かり, 引っ掛け, 引っ替へ, 引っ返り, 引っ返し, 引っ違へ, 引っ籠り, 引っ括り, 引っ組み, 引っ張り, 引っ捌き, 引っ提げ, 引っ裂き, 引っ側め, 引っ揃へ, 引っ竦め, 引っすぐり, 引ったくり, 引っ倒し, 引っつかまへ, 引っ付け, 引っ包み, 引っ解き, 引っ取り, 引っ締め.
- 27 ほかに, ひん奪ひ, ひん出し, ひん巻き, ひん脱ぎ.
- 28 Yoshida, M. (2012) KODASHA'S FURIGANA JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY ふりがな和英辞典. 講談社.
- 29 田近洵一編 (2011) 『三省堂例解小学国語辞典第五版』三省堂.
- 30 山田忠雄ほか編 (2011) 『新明解国語辞典第七版』三省堂.
- 31 たとえば, 親見出しの「遊び」に, 子見出しの「遊び歩く」「遊び暮す」「遊びたわむれる」「遊び惚ける」「遊び回る」が立つ.
- 32 日本人にとっては, すべての複合動詞が辞書に搭載される必要はない. 影山 (1993) は, 後項動詞が, 掛ける, 続ける, 過ぎるなどの場合は, 意味が不自然でない限り, どのような前項動詞とも組み合わせられて複合動詞をつくることから, これらを統語的複合動詞として, 複合動詞レキシコンからは除外した. 日本人向けの辞書にはある種の偏りがみられるのである.
- 33 ヘボン J.C. 原著 (1989) 『和英語林集成』(松村明編) 講談社.
- 34 『日葡辞書』の動詞の見出し語は, 当時のラテン語の辞書に則り, 動詞の連用形, 終止形, 過去形を並べる.
- 35 『邦訳日葡辞書』の注記には, ここで, 形容詞, 副詞というのは, 説明しがたく, 「甘う」「固う」が形容詞であったための考え方とある.
- 36 「相・合」の前項動詞の説明を指す.
- 37 書簡 90 - 20, 1549 年 11 月 5 日 鹿児島 (ザビエル (1994) 『聖フランシスコ・

ザビエル書簡』(河野純徳訳)平凡社.

38 書簡90 - 41 同上

参考文献

- 石井正彦(1988)「辞書に載る複合動詞, 載らない複合動詞」『日本語学』7 - 5.
- 影山太郎(2013)『複合動詞研究の最先端 謎の解明に向けて』ひつじ書房.
- 土井忠生ほか編訳(1980)『邦訳日葡辞書』岩波書店.
- 野田時寛(2013)「日本語動詞用法辞典について(4)―複合動詞一覧の試み―」『人文研究』75.
- 東辻保和ほか編(2003)『平安時代複合動詞索引』清文堂出版.
- 姫野昌子(1999)『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房.
- 松田文子(2002)「複合動詞研究の概観とその展望 - 日本語教育の視点からの考察 -」『言語文化と日本語教育』日本言語文化学研究所.
- 森田良行(1978)「日本語の複合動詞について」『講座日本語教育』14 早稲田大学語学教育研究所.